

山階鳥研の研究活動 標識研究室 -4-

標識研究室紹介の最終回は、ODAやそのほかの海外援助などの仕事を紹介します。また、これから鳥類標識調査の抱負やアジアにおける日本の役割などについて話します。

海外協力

国境のない渡り鳥を調べるためには、国内だけの調査では不十分でなかなか成果が上がりません。日本への渡り鳥は北はロシアや中国・韓国、南はフィリピンやタイ・インドネシアなどの東南アジアの国々から渡ってきます。しかし、これらの国々では鳥の研究や標識調査が盛んでなく、一般の理解や協力も得られていません。日本で放鳥された鳥も多数渡っているはずなのに、足環の発見率もきわめて少ないのが現状です。

現在、標識研究室では海外との協力のために文部省や環境庁のODA事業や、民間助成団体からの援助を受け様々な事業を行っています。具体的

にはアジアの国々と共同調査をしながら、バンディングの講習会や技術交流を行っています。また、研究者を招聘しバンディング技術の習得、日本の研究者との交流などの研修も行ってもらっています。

標識研究室では、このような技術交流や研究者の交流、また放鳥・回収などの情報交流などを通し、標識調査への各国の理解と協力を呼びかけています。また、標識調査参加国の拡大、各国における調査ステーション設置の推進などを各国に働きかけています。これらの活動によって、タイでは組織的なバンディングが始まり、中国では新たな調査ステーションの設置にこぎつきました。

これからの鳥類標識調査

新技術の開発・改良（アルゴス・システムやリーダー）はもちろんのこと、これらの技術を用いての諸外国との共同研究や技術交流など、日本だけに留まらず広い視野で研究を続けていかなければなりません。また、鳥類標識調査の成果を鳥の渡りルートの解明だけでなく、地球規模での鳥の保護や環境保全に役立てる方向に活用していきたいと思えます。

鳥類標識調査は様々な地域や国の協力があって初めて順調に行われます。標識研究室では、アジア地域におけるバンディングネットワークの充実をめざし、幅広い調査・研究活動を行っていきたく考えています。



タイのバンラ保護区にて、講習会参加者全員



フィリピン・オランゴ島での講習会風景



タイでの講習会終了証書の授与式

